

【主題】「効果的な ICT 活用」の組織的な実践を促す GIGA 推進リーダーの役割

【副題】「GIGA 通信」の活用を通して

【学校・団体名】白山市立明光小学校

【役職名・氏名】教諭・田中 哲也

1. はじめに

筆者は本校に異動し、GIGA 推進リーダーの担当となった。筆者は ICT に堪能ではなく、これまで GIGA 推進リーダーの担当も経験したことがなかった。しかし、これからの学校教育に ICT 活用は必須であり、学校のために自分にできることは何かを問いながら、GIGA 推進リーダーとして ICT 活用の促進について実践した。本稿は、その実践を通して GIGA 推進リーダーの役割について考察したことを論じる。

2. 「効果的な ICT 活用」とは？

まず、ICT 活用に関して本校はどんなことに力を入れて取り組んだらよいか、研究の焦点化に取り組んだ。全国学力・学習状況調査（学力調査）の質問紙調査によると「児童生徒一人一人に整備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどれくらい程度活用しましたか（小学校）」という項目では、全国の小学校で「ほぼ毎日」「週3回以上」の回答が 90.6%であり、1人1台端末の活用が確実に進んでいる。しかし、寺島（2024）は、R5 学力調査の結果を踏まえて「ICT 活用の単純な「頻度」と平均正答率に直接的な関係は見られない」と指摘している。さらに「主体的・対話的で深い学びの授業改善を行っている学校ほど ICT 機器を活用しており平均正答率が高い」と述べている⁽¹⁾

また、R5 全国学力調査結果の図1⁽²⁾から端末活用をほぼ毎日活用していると回答した全国の小学校の中で「児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面」、「児童同士がやりとりする場面」、「自分の特性や理解度・進路に合わせて取り組む場面」では活用率が低いことがわかる。この3つの場面は、主体的・対話的で深い学びに関わる場面であり、ICT を単に使うのではなく、この3つの場面を意識した ICT 活用が今後求められると考えられる。

では、本校の実態はどうだろうか。本校の教員に上記の全国学力調査の学校質問紙と同様な内容を質問した。「児童生徒一人一人に整備された PC・タブレットなどの ICT 機器を、授業でどれくらい程度活用しまし

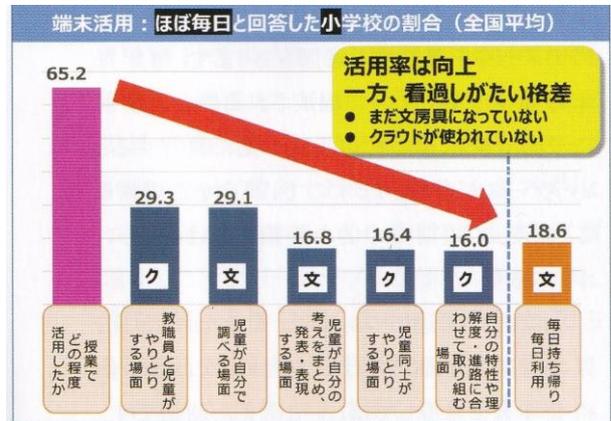


図1 端末活用をほぼ毎日と回答した全国小学校の割合

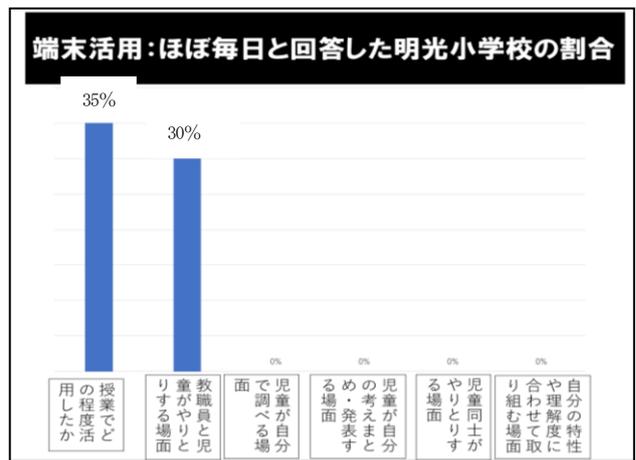


図2 端末活用をほぼ毎日と回答した本校の割合

たか」の項目では、「ほぼ毎日」、「週3回以上」の回答が 59%であった。また、「ほぼ毎日」と答えた教員（35%）の中でどんな場面で ICT を活用しているか調査した結果、図2のように「教師と児童がやりとりする場面」がほとんどであった。この結果から本校の ICT 活用の課題は、児童が ICT を日常的に活用すること、「主体的・対話的で深い学び」の3つの場面で ICT を活用することだとわかった。本校の実態を踏まえ、以下の3つの場面を「効果的な ICT 活用」の場面と定義し、「効果的な ICT 活用の実践」を重点として、学校全体で ICT 活用の向上に取り組むこととした（図3）。

- ① 児童が自分の考えをまとめ・発表、表現する場面
- ② 児童どうしがやりとりする場面
- ③ 自分の特性や理解度に合わせて取り組む場面

図3 本校の「効果的な ICT 活用」の3つの場面

3. 実践内容

実践に取り組むにあたり、「働き方改革」が叫ばれる中、教員が何度も参集するような研修スタイルは難しいと考えた。そこで「明光 GIGA 通信」(以下、GIGA 通信)を発行し、教員に ICT 活用について周知することで研究を進めようと考えた。GIGA 通信では主に3つの内容について記載した。

(1) 「効果的な ICT 活用」の理論の共有

まずは、本校の ICT 活用の重点である「効果的な ICT 活用の実践」について教員と共有した。本校の学校研究は「伝え合い」と「子ども主体」の授業である。GIGA 通信で学校研究と ICT 活用との関連性を示し、教員が必要感をもち効果的な ICT 活用を意識できるようにした(図4)。また、「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に ICT がどのように活用できるのか」、「道徳科の授業に ICT はどのように活用できるのか」などこれから求められる授業づくりや各教科との ICT 活用の関係性を示した GIGA 通信を発行し、効果的な ICT 活用の理論について教職員が理解できるように取り組んだ。

明光 GIGA 通信 No. 9.4 田中

ICT を使うだけでは学力はあがり…ません!
~効果的な ICT 活用の実践とは?~

さて、2学期が始まりました。今年の2学期は研究授業シーズンです。子どもの学びに効果的な ICT の活用をチャレンジしてみてください!ここで「効果的な」という点でおさらいです。夏休み中に行った ICT 研修では「効果的な」を以下の点とお伝えしました。

① 児童が自分の考えをまとめ・発表、表現する場面	この場面で ICT を活用している学校は全国学力の平均正答率が高い!
② 児童どうしがやりとりする場面	
③ 自分の特性や理解度に合わせて取り組む場面	

全国学力の結果から ICT を使えば、正答率が上がるのではなく、上記の場面で ICT を活用することで正答率が上がるということがわかってきたので、ぜひ意識して取り組んでみてください。

単元内自由進度学習にチャレンジ!

夏休み中の学習部全体研修で「児童主体の授業とは何か?」をみなさんと考え、共有しました。そして、明光小では右のようにまとまりました。「児童主体の授業」の模索のため、私もチャレンジしてみようと思います。

社会科で自由進度学習にチャレンジしようと思います。自由進度学習とは、単元内で子どもが自分なりの学習ペースで学習を進める授業スタイルです。学習を子どもにゆだねるとはどういうことが考えられるきっかけになればと思います。

単元は「貴族のくらし」で、単元構成は以下です。

- ① 貴族のくらしの写真を見て、貴族のくらしについて学習課題をもつ。
- ② 学習課題の解決のため、子ども達が自分で学習に取り組み。
- ③ 早く終わった子はチャレンジコースに取り組み。

6の1で上記②③の授業を9月5日(4限)・6日(4限)に行う予定なので、もし興味があれば観に来ていただき、いろいろ教えていただけたらありがたいです。

裏面にスクリーンメニューのオンライン講座の情報を掲載しました!

図4 効果的な ICT 活用の理論に関する GIGA 通信

(2) 「効果的な ICT 活用」の授業実践の紹介

「効果的な ICT 活用」を意識した授業実践を GIGA 通信で紹介した。例えば、6年生の社会科「貴族のくらし」では、単元内自由進度学習で「効果的な ICT 活

用」の①児童が自分の考えをまとめ・発表、表現する場面と③自分の特性や理解度に合わせて取り組む場面の実践を紹介した。児童が「学習内容」「学習方法」「学習時間」を自己選択できるようにし、学習のゴールには児童も1人1台端末で調べたり、考えたりしたことをまとめる表現するようにした。児童は、図書館の資料で調べたり、1人1台端末を使って動画を視聴やミライシードのオクリンク機能で友達の意見を参照したりしながら個々の学習スタイルに応じて学習に取り組む様子が見られた(図5)。

明光 GIGA 通信 No. 9.10 田中

自由進度学習で見られた効果的な ICT 活用場面

9月5・6日に単元内自由進度学習にチャレンジしました。この学習は、子どもが学ぶ時間・学ぶ方法・学ぶ内容を自己選択・自己決定し、学習を自己調整できる力を育てることをねらいとしています。今回は、効果的な ICT 活用の3つの場面(資料1)に沿って子ども達の様子をお伝えします。単元内自由進度学習の重要なポイントは、子どもが単元の見通しを持つことです。今回は「学びマップ」(資料2)を子ども達と共有し、単元の見通しが持てるようにしました。

自分で学習プリントに取り組む場面(マスターコース)では、教科書、PC(NHK for school)、図書館の本など子どもが学ぶ方法を選択しながら学習していました。この姿は効果的な ICT 活用3の場面です。	① 児童が自分の考えをまとめ・発表、表現する場面 ② 児童どうしがやりとりする場面 ③ 自分の特性や理解度に合わせて取り組む場面
--	--

資料1 効果的な ICT 活用の3つの場面

場面	学習内容	達成内容
マスターコース(全員が必ず取り組むコース)	学習プリントを自分で読むこと 教科書を読みながら学習すること NHK for school を活用すること	学習プリントを正確に読み取り、理解すること 教科書の内容を正確に読み取り、理解すること NHK for school の内容を正確に読み取り、理解すること
チャレンジコース(どれか1つを選んで取り組むコース)	図書館の本を読みながら学習すること NHK for school を活用すること NHK for school の内容を正確に読み取り、理解すること	図書館の本の内容を正確に読み取り、理解すること NHK for school の内容を正確に読み取り、理解すること NHK for school の内容を正確に読み取り、理解すること

写真1 NHK for school で学ぶ児童

チャレンジコースでは、マスターコースでの学びを活用し、子どもが3つのコースから選んで取り組みました。3つのコースともタブレットを使い、調べたことや自分の考えをまとめたり、友達に伝えたりする内容を盛り込みました。特に5・7・6コースは想定以上に盛り上がりました。この姿は効果的な ICT 活用1の場面です。

写真2 好きな歴史人物を PC でまとめる

お忙しい中、ご参観していただいた先生方もいらっしゃいました。ありがとうございました。先生方からは「子ども同士が対話する場面が少ないのでは?」などご意見をいただきました。効果的な ICT 活用2の場面があまり見られなかった点などさまざまな課題が見つかりました。

次号では、この実践を明光小の目指す「子ども主体の授業」の視点でらりかえります。

図5 効果的な ICT 活用の①・③の実践紹介

道徳科「規則尊重」と「親切、思いやり」の学習では「効果的な ICT 活用」の②児童どうしがやりとりする場面の実践を紹介した。「自分ならどうするか」という道徳的価値に向き合うとともに、自分とは異なる意見をもつ他者との議論を促すようスクリーンメニューのポジショニング機能を活用した。この学習でA児は「私はこの道徳の授業を通して、最初は親子を美術館に入れない派だったけど、Aさんなどの入れる派の人の意見を聞いて私は入れる派に変わりました。道徳は何が正解で何が間違っていて分からないのがとても面白いと思いました。」とふりかえり、ICTを児童どうしでやりとりする場面で活用することで道徳的価値を多面的・多角的な視点で考える様子が見られた(図6)。

あなたならどうする？

～ポジショニング機能を活用した道徳科の実践～

前号でお知らせしたように道徳科で多角的・多面的に考える道徳の授業にチャレンジしました。今回は、その実践の様子を紹介。教材として活用したのは、「遅れてきた客」(NHK for school のココロ部)という動画です。(裏面に指導案を添付しました。)

① 導入「遅れてきた客」を視聴

主人公は美術館の警備員である児島さん(お笑い芸人)です。美術館終了後に1組のカップルが遅れて来ましたが、児島さんは「入場できません」と断ります。その後、おばあさんとその娘の親子が遅れてきました(写真1)。おばあさんは、この美術館の絵に亡くなったおじいさんとの思い出の絵があり訪れました。遅れた理由は、電車の遅延だそうです。さて、あなたが児島さん(警備員)だったら、美術館に入れますか？入れますか？



写真1 遅れてきた客の動画の一部

② 自分の考えをポジショニング(スカイメニュー)で位置付ける

子ども達は、ポジショニング機能に美術館に「入れる」か「入れない」かを考え位置づけました(写真2)。結果を見ると「入れない」の意見が多いです。その理由は、「最初のカップルが入らなかったのなら、カップルも入れた方がいいし、不公平でルールを守っていないから」などの意見でした。

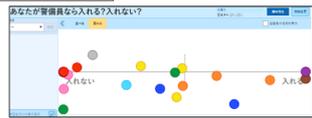


写真2 自分の意見をポジショニング機能で位置付ける

③ 続きの動画を視聴後、再度自分の意見をポジショニングで位置付ける

実は、動画に続きがあります。実は、おばあさんは病気で入院しており、この日初めて一時退院ができました。さらにおばあさんは、もう残りの命が短いようです。この理由を知り、改めて子ども達は児島さんだったらどうするかをポジショニング機能で位置付けました(写真3)。結果を見ると写真2に比べ「入れる」の意見が多くなっていきます。理由を聞くと「私は入れるに意見を变えました。わけは、外に出ていいよと言われてここまで来たのに意味がなくなるし、最後に苦しい思いをしてお亡くなりになってほしくないからです。」などの意見でした。ここで紙面がいっぱい…。続きは次号で!

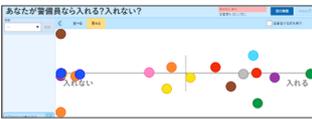


写真3 動画続きの視聴後、再度考えを位置付ける

図6 効果的な ICT 活用の②の実践紹介

(3) 教員の個別最適・協働的な研修の工夫

上述したように、何度も ICT 活用の研究会の開催は難しいことから、教員の研修も個別最適な研修になるよう工夫した。図7のように ICT のオンラインセミナーの開催について紹介し、それぞれの教職員が受講したいセミナーを選んで研修ができるようにした。また、ICT に関する参考資料動画も適宜紹介し、二次元コードを読み取りいつでも視聴できるようにした。

GIGA 通信の発行するにつれて、教職員間でも ICT 活用に関する対話も増えてきた。例えば、初任者の教員からは「前の GIGA 通信に出ていた道徳の本を見せていただけませんか？」と声をかけられたり、中堅教員からは「この前の GIGA 通信に出ていたデータの結果はどうして向上したんですか？」と質問されたりと対話が見られた。そして、「もっと教職員の実践事例を知りたい」との意見も出てくるようになり、教員から GIGA 1 グランプリ(教職員が ICT 活用の実践紹介の場)をしようというアイデアがあり開催した。

4. 実践結果と考察

本実践の成果を検証するために、本校6年生(75名)に4月に実施したR6全国学力調査の質問紙調査と同様の調査を12月に実施した。以下は、その結果である。

ICT 研修も個別最適な学びに!

～夏のスカイメニュー自主研修のご案内～

先日は ICT に関するアンケートにご協力をいただきありがとうございました。皆様のご意見が大変参考になります。集計結果について、まだお知らせ致しません。取り急ぎ「こんな研修あったらいいなと思う内容がありますか？」という質問の回答を開示します。

- ① スカイメニュー等を使うと、ラクにできる場面や単元の紹介(ICTがよりメリットがあることを実感し、教職員がより ICT を使う機会を増やすために)。
- ② 授業での具体的な使い方、指導の仕方。
- ③ 紙 VS デジタルの実証研修。
- ④ 1人1台端末を活用する個別最適な学びの実践例(特に算数)。

以上の回答から ICT の具体的な活用方法について知りたいという意見が多かったです。私は、ICT が堪能ではなく具体的な活用について紹介できません…そこで夏にあるスカイメニューのオンライン研修をご案内します。スカイメニュー会社が zoom で下記の研修を実施します。

- 7月29日(月) 14:00~14:45 「はじめての SKYMENU」
- 7月30日(火) 14:00~14:45 「はじめてのグループワーク(発表ノート)」
- 7月31日(水) 14:00~14:45 「ねらいに応じて共有方法を使い分けよう」
- 8月1日(木) 14:00~14:45 「思考テンプレートで意見を整理しよう」

興味のある方は、右の二次元コードから参加をお申し込みください。オンライン研修なので、ご自宅でも参加できます。また、スカイメニューの公式アカウントを LINE 友だちに登録することで、随時スカイメニューの活用事例が更新され情報提供しています。興味のある方は友だち登録してみてください(登録の二次元コードは裏面に掲載します)。ICT 研修も先生方のニーズや興味・関心に応じた個別最適な学びスタイルにチャレンジしていきます!



スカイメニューオンライン研修・申し込み

ちなみに上記回答③の「紙 VS デジタルの実証研修」の視点、おもしろいですね。研修開催は難しいですが、私の見解を一言、私の前任校の調査では「ICTを使う学習が楽しい」と答える児童はとて多かったです。前号で紹介した調査結果は対象が大学生であり、「記憶のしやすさ」の調査です。「楽しさ」と「記憶しやすさ」では、発達段階によって感じ方が違うかもしれませんね。興味がある人は、ぜひ子ども達に調査してみてください! 回答④に関する回答はお時間をいただきます!

図7 個別最適な研修を促す GIGA 通信

① ICT機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができますか。

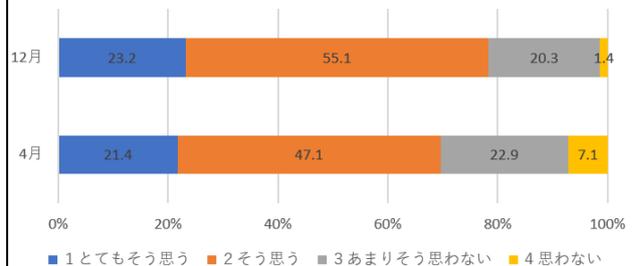


図8 質問①の本校6年生の4月と12月の結果

② ICT機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができますか。

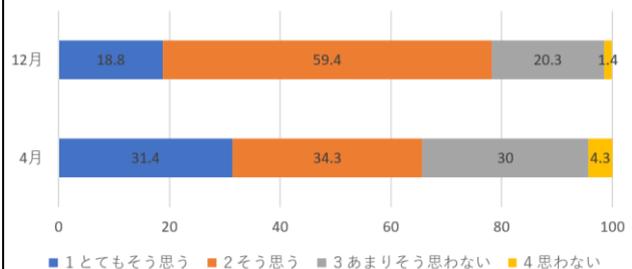


図9 質問②の本校6年生の4月と12月の結果

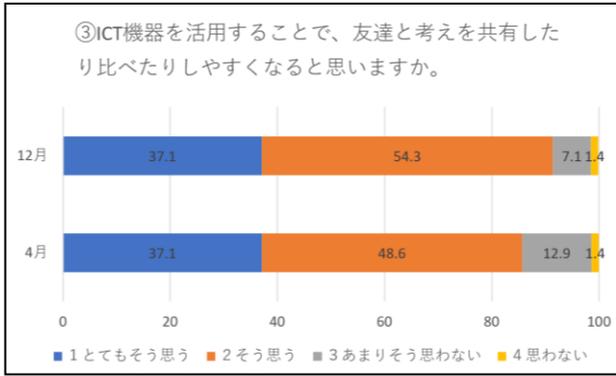


図10 質問③の本校6年生の4月と12月の結果

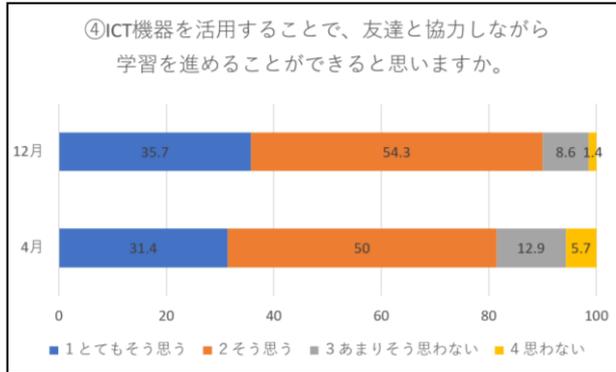


図11 質問④の本校6年生の4月と12月の結果

図8の「①ICT 機器を活用することで、自分のペースで理解しながら学習を進めることができますか。」では、4月の肯定的な割合（本稿では肯定的割合を「とてもそう思う」、「そう思う」の合計の割合とする）は68.5%、12月の肯定的な割合は78.3%であり、9.8%上昇していることがわかる。

図9の「②ICT 機器を活用することで、自分の考えや意見を分かりやすく伝えることができますか。」では、4月の肯定的な割合は65.7%、12月の肯定的な割合は78.2%であり、12.5%上昇していることがわかる。

図10の「③ICT 機器を利用することで、友達と考えを共有したり比べたりしやすくなると思いますか。」では、4月の肯定的な割合は85.7%、12月の肯定的な割合は91.4%であり、5.7%上昇していることがわかる。

図11「④ICT 機器を活用することで、友達と協力しながら学習を進めることができますか。」では、4月の肯定的な割合は81.4%、12月の肯定的な割合は90%であり、8.6%上昇していることがわかる。

以上の児童アンケートの結果から本実践の組織的なICT活用の取り組みが、児童の学習態度の向上に影響していると考えられる。

5. GIGA 推進リーダーの役割についての考察

(1) 本校の強みと弱みを明確化する学力調査の活用

まず、本校のICTに関する実態を調べ、本校の強みと弱みを明確化することが重要である。そのために学力調査は、毎年実施され経年変化や全国、各都道府県の学校の結果と本校の実態を比較でき有効な資料となる。また、学力調査の結果は本稿で挙げたように実践の検証にも活用でき、研究の分析にも有効である。

(2) 校内研究とICT活用を関連させた研究の焦点化

学力調査から見えた本校の実態から、ICT活用の研究を焦点化することで、教員が研究の重点を意識でき組織的に取り組むために効果的である。また、本実践では、校内研究の内容とICT活用の研究と関連させることにより、教員がより必要感を高め、学校研究の質的な高まりにも良い影響が見られると考える。

(3) ICT活用実践の積極的な発信

本校教員に「GIGA通信で役に立つ内容は何か」を質問したところ、実践紹介であった。本実践でも実践紹介をGIGA通信で発信することで教員は具体的な実践を知ることによって「効果的なICT活用」のイメージが持ち、実践の意欲の高まりが見られた。教員で日々工夫し、チャレンジした実践を紹介し合い、その実践を蓄積することが組織的な実践に効果があると考えられる。

6. おわりに

1人1台端末が整備され、1人1台端末を「まずは使ってみる」の段階から「どう活用したらよいか」という段階に入っている。しかしながら、現場ではGIGA担当の役割として壊れた1人1台端末の修理やメンテナンス等に追われ、「ICTをどう活用したらよいか」が研究しづらい状況にあるのではないかと感じている。「はじめに」でも述べたように、本稿はICTが堪能でない筆者の取り組みであり、どのような方にも活用できる実践であると考え。本稿が、これからGIGA推進リーダーを担う方のさらなる取り組みの一助になれば幸いである。

註

- (1) 2024年7月25日に開催された教育ICT展セミナーで寺島史郎氏（文部科学省）の「GIGAスクール構想の推進について」講演資料から引用
- (2) 「ICTを活用した学習サポート 学校とICT」2024年6月号 Sky株式会社から引用